

【目的】 工事完成前に、適切な設計変更手続きや工事書類検査が円滑に行われるよう、設計変更内容、工事書類の簡素化について、受注者と発注者が確認共有することを目的として開催するとともに、発注者においては、若年職員の育成及び技術の承継を目的として技術的な助言等を行う場としても活用する（H28年度より試行）。

【アンケート結果のまとめ】

- 令和3年度は全道で71件の工事で開催し、令和2年度の24件に対して大幅に開催数が増えている。
- アンケートには受注者29人、発注者27人から回答。
- 提案内容の反映度について「全て・概ね要望どおり」との回答は、受注者で93%、発注者で100%と高い水準。
- 全体的な評価についても「非常に・概ね良かった」との回答は、受注者で100%、発注者で96%と取組を評価する意見が多かった。
- 設計変更関係の打合せのほか、仮設工、施工承諾等の受注者提案や対外協議の確認などの内容も検討されている。

【R4年度に向けた検討の方向性】

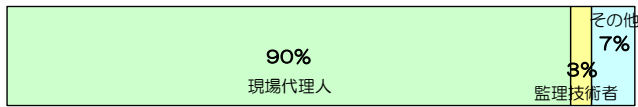
- 受発注者間で設計変更や工事書類の内容などについて情報共有を図ることにより、工事を適切に管理する場として有効に機能していることから、取組みを継続。
- 本取組がより多くの工事で活用できるように受発注者に対し周知徹底を行う。

建設管理部別実施件数

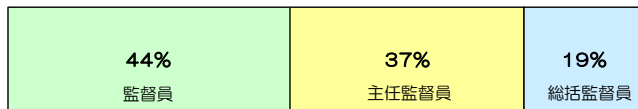
建設管理部名	札幌	小樽	函館	室蘭	旭川	留萌	稚内	網走	帯広	釧路	合計
R2 実施件数	0	0	1	8	1	2	5	2	5	0	24
R3 実施件数	10	8	6	7	8	3	6	6	7	10	71

受注者：29人、発注者：27人

受注者



発注者



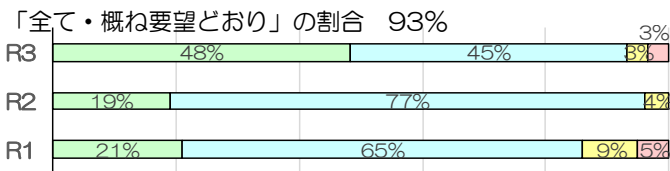
Q1：審議内容の主なもの



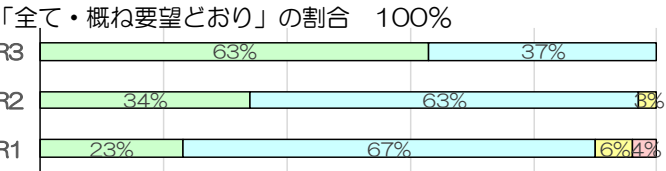
受注者

発注者

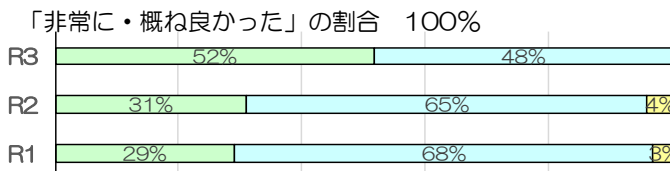
Q2：受注者が提案した内容の反映度



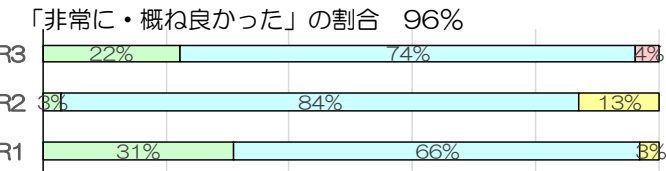
Q2：発注者が提案した内容の反映度



Q3：全体的な評価



Q3：全体的な評価



Q4：その他意見・要望等

【凡例】 青色：肯定的な意見など、赤色：改善意見など

受注者

- 監督員と現場代理人だけでは決定できないことも、協議できるのでいい。

発注者

- 受発注者間の相互理解を深めるため、今後も継続していくと良い。
- 受・発注者間の意思確認が取れるので、設計変更遅延等に係るトラブルが解消される。受注者の申し入れに困われず、開催した方が若手担当者や受注者も安心できる。
- 受注者側（業界）へのPRが少ない印象。発注者側は開催要望には応えたい。